

# おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 20 号 (10 月 1 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 悲願成る！ 山東1部復帰！！

9月27日(土) Y2B 第14節(最終節) 鶴岡南戦が酒田市北港緑地公園で行われました。**山東はここまでのリーグ、暫定2位の山商と勝ち点差1の1位。**すなわち、最終節勝利すると、自力での Y2B 優勝=1部復帰が決まる。山東引き分け、山商勝ちだと逆転される。**山商はスタメンの半分(半分以上?) が県トレセン(国体における山形県選抜)のメンバー**であり、山商の引き分け以下の結果に期待することはできない<sup>1</sup>。というか、よく山東は「県選抜」相手に昇格争いを演じているものです。それだけ考えても、山東は今年のリーグ戦、よく頑張っている。しかも、後期は新人チームですから(ここまで後期6戦5勝1敗)。「**県選抜**」の**油断に付け込み**、後期中で勝ち点で上回り、「3連勝したら優勝」の状況になってから2勝して最終節を迎える。**最終節の相手は、宿敵鶴岡南。**今年の県総体で痛恨の初戦敗退を喫した相手。両チームは代替わりしておりますが、同じ名前のチームに連続して負けるのは当然良くない。しかも、夏の遠征の聖地苗場にて凶らずも対戦し、新チーム同士の対決でも負けている相手<sup>2</sup>。ここに勝たないと上には行けないということです。そう腹をくくって試合に臨む。やはり鶴南の選手・スタッフだって、直接対決で負けたことのない相手が昇格するとしたら納得がいかないはず。**いろんなことを考えても、勝って昇格することに意味がある。**場所は、酒田市北港緑地公園(天然芝×2)。もちろんこの日も清野 OB 会長とか後藤報道局長は遠方での試合にもかかわらず駆けつけて下さいましたが、どちらかが「この会場は験が悪い」とおっしゃる。よくよく思い出せば、ナオヤの代(タイチの代の8代前)の選手権山商戦にて、ボランチナオヤのドリブルからの好パス<sup>3</sup>を後方から走り込んだ右 SB シンペー<sup>4</sup>がアウトにかけて右足を<sup>5</sup>振り抜き、ゴール左サイドネットに外側から巻いて入るスーパーミドルシュートで先制したものの、ナオヤの疑惑の退場、そしてジローの超疑惑の退場(一発)<sup>6</sup>により9人に追い込まれ、逆転負けを喫した会場でもあった。故障していたエースのケイ<sup>7</sup>を途中で投入し、9人ながら最後は山商を追い込んだ、でも追いつけなかった試合が思い出される。でも、去年選手権の鶴工戦にて、タイチの

<sup>1</sup> 山商引き分け・山東負けだと、勝ち点で並びますが、山東が得失点差で山商に差をつけているので、山東がよほど大敗しない限り有利でした。

<sup>2</sup> その試合については部報 16 号をご覧ください。

<sup>3</sup> ナオヤ(コテッチャン兄)はキックモーションを小さくできたため、キックを相手にばれずにできた稀有な選手。このとき、ドリブルから突然、確か左足によるパスが出て、ベンチにて驚いたことを記憶していません。要は、走っている足の回転のままキックへ移行できたということ。

<sup>4</sup> 現在、鳥取城北高校のサッカー部監督!

<sup>5</sup> 「アウトにかけて右足を振り抜き」とは、右足アウトサイド方向に当てつつ蹴ることでの回転をかけて蹴った、ということ。

<sup>6</sup> 相手を踏みつけたかどで一発レッド。しかし、試合後、山商の選手は教えてくれました。「踏まれてません」。

<sup>7</sup> 現在酒田市市役所勤務!

「十六文キック」で先制<sup>8</sup>、結局 2 対 0 で勝利しており、試合前はそんなに縁起の悪さを感じてはいませんでした。天然芝は長目（小まめに刈り取られていない）で所々大きな雑草が伸びているが、「芝がはげてデコボコ」ではなく、普通にサッカーを楽しめる環境。ただし、海っ端だけに、風は強い。斜めに吹いており、しかも巻いているため、どちらかのサイドが完全に順風で有利という訳ではないが、やはり気になる。**選手入場の際に 3 人のベンチ外選手（マツキ、オオヤマ、タラコ）の歌う校歌が一際大きく聞こえ選手を励ます。** 12:00 キックオフ。

試合が始まり、何とはなしに山東が押し込んだと思ったら、**右サイドの深い位置でムンタリが強引なドリブルを開始し、右サイドをえぐると思ったら倒され、PK 獲得。キャプテンの FW タイチが冷静に決め、前半 3 分で先制。**心では喜びましたが、まだまだ始まったばかり。大きさに喜ぶ気にはなりません。しかし、**その直後、今度は CB シャモジのクリアが好パスになり、鋭く反応したのが右 MF カズマ。独走し、GK と 1 対 1、またもやこれを冷静に決め、前半 5 分で 2 対 0 となる。**この得点には思わずベンチから飛び出し、ガッツポーズを作っていました。山東にとって理想的な立ち上がり。しかし一転、その後は鶴南の分厚い攻撃の前に防戦一方となる。鶴南ボランチとサイドハーフがピッチ中央で山東の選手を剥がし数的優位を保って最終ラインに仕掛け、FW と連携してくる県総体と同様の攻撃に苦しめられる。また、山東左サイドをスピードで破ったり、山東右サイドのクリアミスまたは判断ミスをとがめショートカウンターを繰り広げたり、やりたい放題（山東やられ放題）。しかし、鶴南のシュートがマウスを外れるか、なぜか、2 年生 GK の我がサブローの正面に飛び<sup>9</sup>、冷や冷やものの前半を凌ぐ。2 対 0 でハーフタイムへ。

さて後半。前半は固さの見られたタイチも漸くエンジンがかかってきたというか、ムンタリだけでなく果敢にゴールに迫っている。もちろんムンタリは、どうしようもないようなアバウトな山東のクリアボールを猛ダッシュで奪取し、ドリブルで仕掛けたりパスでチャンスを広げたり。ともかく、得点は入らないものの、前半よりはまし。後半は鶴南の攻撃を抑えた、という訳ではないのですが、鶴南の選手がシュートを打てるところでパスしたり、山東の選手がしっかりブロックを敷いている所でシュートを打つのでシュートが山東の選手に当たりゴールに届かなかつたりするシーンが目立つ。すなわち、守備にて冷や冷やしたのは明らかに前半の方で、後半は鶴南の持ち味を出させなかったと言えるか。**後半 19 分、縦に蹴られたロビングボールをサブローが相手 FW と競り合うも、強風が影響したか目測を誤り相手の頭に先に合わせられ、失点。**悪いムードが漂いますが、**またもやその直後！ 後半 20 分、ボランチサンペスの左斜めからのスルーパスに抜け出したカズマが高さ 120 cm ほどのボールをかがんで頭で落とすポストプレー、絶好のボールをゴール前でもらったムンタリがダイレクトでゴール右隅に蹴り込み、3 対 1 に突き放す。**あのポストプレーが意図したプレー（ヘディング）だとしたら、カズマは天才です。ともかく、失点直後の得点で、試合を一気に楽にさせる山東。その後、後半の後半は、山東が押し気味に試合を進め、結局そのままタイムアップ。

まさか、新人チームで昇格をやり遂げるとは、正直思っていませんでした。どこかで「いつかやられる」と思っていました。要はチームを信じ切れてはいなかったことを正直に告白します。しかし、**選手たちは指導者の予想よりも成長していたのですね。**本当によく頑張りました。3 年生が前期までしっかり残ってリーグ戦を戦ってくれたこと（前年の後期は良く戦ったがあと少しのところ昇格を逃し悔しい思いをしたこと）、その前のヨシタカの代では代替わりし後期を戦うが無念の降格となり翌年 2 部で奮闘したこと、その前のショータの代では代替わりし

<sup>8</sup> 気になった方は平成 25 年度部報 20 号をご覧ください。

<sup>9</sup> 確か、左サイドを破られ、センターリングを上げられ、ヘディングで合わせられたシーンが、もっとも危なかった。シュートはサブローの正面に飛びました。齋藤 GK コーチによると、運が良かったとも言えるが、サブローのポジショニングが的確だったから、ボールが正面に飛んでくるように見える、とのこと。

てからよく戦い残留を決めるも翌春リーグで苦しい戦いをし断腸の思いで後輩にリーグを託したことなどなど、**先輩方のリーグ戦にかける思いが結集した今回の昇格劇**でした。これまで先輩方の1部残留をめぐった戦い、無念の降格、そして昇格をめぐった2期の戦いを思い出し、山東の「縦のライン」に思いを馳せ、先輩方に良い報告のできることを何よりの喜びと感じました。遠くまで応援ありがとうございました。今週末は蔵王坊平（&猿倉）にて進学校大会を戦い、翌週からは選手権です。引き続き応援よろしくをお願いします。

**今期のリーグ戦の応援、本当にありがとうございました。**